

運用面と教養面の向上を目指した英語 I の指導と評価

1. はじめに

「定期テストの改善による授業改善」というテーマの元で、生徒の実態を考慮して、実践的コミュニケーション能力と自己実現のための学力の両面を伸長させるための授業・評価の実践を行う。

2. 定期考査の工夫と授業の改善の方針

- 英語 I の授業実践において、言語活動の場を設定する。
- 英語 I の定期考査において、言語活動を意識した準備（学習）が必要になったり、考査問題に取り組むことそのものが言語活動になるよう問題を設定する。

3. 考査問題作成の方針

- 考査範囲

・ 前期中間考査	Lesson 1, 2
・ 前期期末考査	Lesson 3, 4, 5
・ 後期中間考査	Lesson 6, 7, 8
・ 後期期末考査	Lesson 9, 10, 11

4. 工夫の具体例

- 後期中間考査問題ごとの趣旨（内容のまとめりと評価の観点）

I. 【読むこと－理解の能力（詳細理解）】

1. 内容語、機能語を含めた15語が欠落したLesson 6の教科書本文を読み、当該語の欠落箇所を特定し、その前後の1語ずつを答える問題。様々なタイプの音読活動を行い、取り込んだ英文を発信できる段階にまで高めることを目標として授業を進めているが、ここでは取り込んだ英文の定着度を測定する。
2. Lesson 6において学習した本文の10文を意味が通るように並べ替える問題。1と同様、取り込んだ英文の定着度を測定するとともに、文と文の意味的つながりを理解し、まとまった英文に再構成する力を測定する。採点において完答のみに点を与えると部分的にできている生徒の力が測れないため、一組の文の前後関係が正しければ得点になるように、解答・採点方式を工夫した。

II.

1. 【言語についての知識・理解】

英文を詳細に理解し、適切な前置詞を入れる問題。同一の品詞に限定するよう配慮した。

2. 【言語についての知識・理解】

日本語の語句の意味を表す英語（意味理解の段階で満足できる語句）を本文中から探す問題。綴りを正確に書くことを求められる際に伴う負荷を下げる工夫をした。

3. 【書くこと－表現の能力】

表現したい内容を正しく表す英文を、語句の並べ替えによって生成する問題。

4. 【読むこと－理解の能力／書くこと－表現の能力】

必要な情報が書かれた箇所を特定するための適切な理解力（読むこと）と、それを質問の形式

に合わせて、正確に表現する力（書くこと）を測定する。内容と言語形式の両観点から採点を
する。

III.

1～2. 【読むこと一言語や文化についての知識・理解】 Lesson 8

Lesson 8の英文を正しく読み、文脈をつかむことで、空所に入る適語を特定する問題。前後関係を読み取る力と語法の知識の両方が問われる。

3～4. 【読むこと－理解の能力】 Lesson 8

Lesson 8の本文を正しく読み取る力があるかどうかを測る問題。解答の出力を日本語で行わせるため、出来が解答者の日本語表現力に左右される可能性がある。英語の試験で、解答を日本語で出力させることの是非は議論していく必要がある。

5. 【書くこと－表現の能力】 Lesson 8

Lesson 8の初見の要約文を読んで、空欄に内容語を補い完成させ、内容把握が出来ているかどうかを測る。授業で行う本文の要約とほぼ同様の活動をテストの場でも行うことになる。最終的には本文の内容を話し相手に口頭で説明することを出口とするが、理解の能力を測る出題としては内容語の補充までとする。

6. 【読むこと－理解の能力】 Lesson 8

Lesson 8の内容に関する記述を読み、正誤を判断する問題。初見の英文の正誤を判定させることで、単なる暗記テストではなく読解力を測る。

IV. 【読むこと・書くこと一言語や文化についての知識・理解】

1. 語彙知識を測定する問題。日本語と英語の単語レベルにおける1対1の置き換えにならないように、クロスワードパズルを解くという実際の言語使用の場を設定し、英単語を生成させるようにした。パズルを解くためには、問題文を読み取る力や、文化的な背景知識も要求される。
2. 正しい英語を生成するための語彙・語法の知識を問う問題。授業において単語レベルではなく意味のかたまりであるフレーズレベルでの語彙の定着に主眼を置く。したがって、文構造や文意の把握を困難にするような恣意的な穴埋め問題にならないように留意する。

5. 定期考査の工夫の結果

「『指導と評価の一体化』の意図は『指導しながら、評価する』ことではなく、『指導』の結果を『評価』し、その『評価』結果をもとに次の『指導』への手立てを得ることである。（根岸雅史、『英語教育』2005年7月号）」

読み取った内容を集団の中で紹介するという言語活動は、大学のゼミや企業など実社会におけるプレゼンテーションを意識した場面設定である。このような「付けたい力」を念頭に置いて、日頃の授業活動とそれに基づく考査問題を工夫してきた。具体的には、テキストの定着度を見るだけでなく、定期考査を受験するという行為を通して、読解のプロセッシングを行わせたり、既習の知識を運用させたりする出題を多くするように心がけた。

指導の結果、音読やディクテーションが読解力の向上および語彙・語法の習得に有効な手立てであることを学習者に意識させることができた。生徒たちは授業で行う音読練習に年間を通じて熱心に取り組んだ。

6. 生徒の意識（授業改善アンケートより）

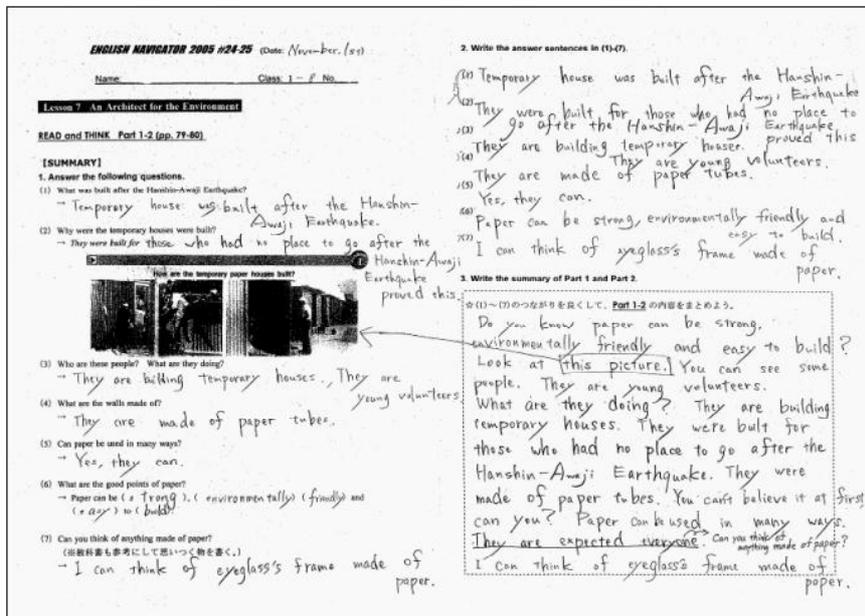
学年末に実施した授業改善アンケートの中から、音読とサマリーの活動における生徒の意識を紹介する。

(1) 音読

- 音読は声を出すこと自体が楽しい。
- 家で一人では発音することができないので、発音がわかってためになる。
- CDとの同時読みはリズムが分かりやすくてためになる。
- 文の流れや強調するところが分かり、ためになる。
- 音読すると読む力が増すと思う。
- 教科書の本文が頭に入るので、期末テストの穴埋め、並べかえの問題ができる。
- △音読活動が少ない。
- △声を出すのが苦手なので好きではない。

(2) サマリーの英作文

- サマリーの英作文は教科書のまとめになるのでよい。
- 教科書の総復習ができる。
- 自分で考えて英文を作るので英語力が上がる。
- 定期テストなどで英語のQ&Aがやりやすい。
- △内容理解をするのはいいけれど、自分から書き出すのが少し難しい。



7. 評価のバランス

	配点	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
定期考査	70		10 英作文	30 読解	30 語彙・語法・文法 背景知識
活動の観察	30	10 サマリー (プレゼンテーション)	10 サマリー (ワークシート)	10 Q&A (ワークシート)	
合計	100	10	20	40	30

8. まとめと課題

大半の高校生にとって、試験の存在が英語を学ぶ大きな理由であるとするれば、試験でよい成果を収めるために努力することが、結果的に英語の運用能力を向上させることに繋がるように配慮して問題作成を行うことは大変重要である。本研究では教科書を用いることを前提に、コミュニケーション活動を取り入れた授業と、評価計画、考査問題の事例を提案した。

定期考査の出題に際しては、既出の言語材料をどれだけ覚えてきたかだけでなく、いかに運用して英語を使うかにも重きをおいた。当然、授業も同様の線に沿って展開している。サマリーをライティングとして出力させる活動に関しては、教える側が更に系統的に学び、正しい技術を指導する必要性を感じている。